

「馬場小室山遺跡フォーラム」第100回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2019～2021】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かかわる」から、「山田湾文化」の「つながる」パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾文化」の比較考古学への新展開—地域文化と広域連動メカニズムの解明—＞
知識・経験・思考・領域等にみられる現代思想からの証拠に基づく知的解放を目指して活動します！

新展開1 (ムロ16) までは以前のレジュメ参照	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみる墓式と葬式の真相解明)	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ17 予告)「亀ヶ岡文化」の北縁地域における「逆位大形壺」の風習【『利根川』41】
新展開2 (オム9) までは以前のレジュメ参照	「オムちゃん」と 「ムロさま」との 「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム10 予告)千歳市ママチ遺跡の土面 (オム11 予告)「燭燭信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3 (シオ1) ～ (シオ5) は以前のレジュメ参照	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破 縄文時代の製塩土器は「採鹹・せんごう土器」が真相！ 固形塩の物流ではなく、「大形魚塩蔵品」・「汽水系塩(海水)煮」に留まらず、濃縮海水を内陸で希釈する「淡水魚(含む特産ウナギ)塩(海水)煮」の普及か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態と僅かな出土点数に注目した「採鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義【『利根川』40】 (シオ8)古鬼怒湾で後期中葉から大量出土の粗製土器とウナギのブツ切り「塩(海水)煮」／「採鹹・せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ「塩(海水)煮」に注目！ (シオ9)シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋 (シオ10)「微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性」？アママは「藻灰」×「草灰」○ (シオ11)「製塩土器」に観る「大宮台地系列」(馬場小室山)、「武蔵野台地系列」(正網・下布田) (シオ12)古鬼怒湾の「魚食・塩(海水)煮文化」と加曾利貝塚の「貝食・塩(海水)煮文化」 (シオ13)「補注式灰煮沸法」は現代人のおとぎ話か？「製塩土器」の膨大な個体数と爆発的普及に見合う「アママ灰」製作は煮沸によるせんごう過程と二度手間では非効率！ (シオ14)「銚子の浦」(完新世バリエー)が「流海」内湾か、外海性「チョウセンハマグリ」から考える！ (シオ15)小野川河口「古渡湾」のラグーン化は縄文時代晩期後半「前浦式」！ (シオ16 予告)「大洞A'式」直後の三陸地方には仮称「続A'式」が展開！ (シオ16 予告)「砂沢式」に並行する北上川流域の土器群と山田湾
新展開4	「ツナがる」の 「限界思考」打破 馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾まるごとスクール」の「山田湾文化」の考古データをエビデンスとし、「ツナがる」をキーワードに新たな比較考古学の推進	「見沼文化」は「撚糸文土器」に地域文化が確立し、「条痕文土器」の地点貝塚形成は列島における「縄文海進」による海洋資源開発の顕在化にある。「見沼文化」と「山田湾文化」がいつどのように「ツナがる」か、縦横に現象を見出し、背景にあるメカニズムの解明に挑戦しよう！ (ツナ1)土器の施文原体として九州から北海道まで「ツナがる」貝殻を使用する風習とは？ (ツナ2)仮称「八雲式」の制定と大柄鋸歯文の来歴と組成は前後にどう「ツナがる」か？ (ツナ3)縄文時代早期とは「自然環境としての日本列島を形成し、海洋適応としての貝塚形成の風習が九州から北海道まで「ツナがる」時代」と概念化 (ツナ4)「見沼文化」に集中する「撚糸文土器」とその直後に観られる「押型文土器」の北漸 (ツナ5)「縄文早期／条痕文海進」と「縄文前期／羽状縄文再海進」、そして「繊維土器」の広域展開 (ツナ6)「大洞A'式」直後の三陸地方には仮称「続A'式」が展開！ (ツナ7)山田湾における「大木8-9(中間)式」の地震津波は小名浜を超えて東京湾へ (ツナ8 予告)「大洞A'式」直後の下北方面には仮称「八幡堂式」が展開！ (ツナ9 予告)「砂沢式」に並行する北上川流域の土器群と山田湾

1.【地域間の比較考古学とパブリック・アーケオロジーの底力】：自然の恵みと基層文化を比較し相対化しましょう！

＜＜ パブリック・アーケオロジーから企図する縄文文化と弥生社会の比較考古学 2019 ～2021＞＞

- ・馬場小室山遺跡を形成する「縄文文化とは何か？」、そして馬場小室山遺跡の次に形成される環濠集落の「弥生社会とは如何にあったのか？」というパブリック・アーケオロジーからの必然の問いに対し、**権威や通説には捉われない坪井正五郎の精神**に則り、**検証可能なエビデンスから立ち上げる接近法に学ぶ構え**を徹底します。
- ・これには「**山田湾まるごとスクール**」で進めてきた**パブリック・アーケオロジーの実践**が有効に思えます。未経験のフィールドに立ち、自然が破壊された都会での虚像や常識を払拭し、**未経験の環境や自然に寄り添う生活を学ぶ**ことにより改めて地域研究の本質へと接近するならば、これまでの**考古データの解釈を抜本的に見直す契機**となり、また高次のトレーニングともなり、**権威や通説とは異なる新たな視点の獲得と展開**が期待できます。
- ・列島は「ツナがる」！ をキーワードに、馬場小室山遺跡の「**見沼文化**」と「**山田湾文化**」の考古データをエビデンスとして新たな比較考古学を立ち上げ、「**交流**」をテーマとした研究展開を図りたいと思います。

1-1.【古鬼怒湾の環境考古学】：「銚子の浦」(完新世バリアー)か「流海」内湾か？外海性「チョウセンハマグリ」から考える！

(1) 鴨志田隼司「波崎砂丘低地における縄文時代の遺跡立地と「銚子の浦」(完新世バリアー)の形成について」

- ・これまで古鬼怒湾でも現利根川流域の貝塚、取り分け中妻貝塚や立木貝塚などを議論する場合、「安行1式」以降はヤマトシジミ貝塚に移行することからラグーン地帯と考えています。しかし、提示された(田辺2013)によるC14年代のモデル図によるならば、泥干潟と砂泥底との分布が貝塚研究による印象風景とはかなり異なります。貝塚研究からはより上流の中妻貝塚にまでラグーン地帯が展開していますので、地質学の過誤とは云えないまでもボーリングコア(?)の年代決定に過誤がみられています。従って、(田辺2013)は個別を参照するのではなく、数千年という時間の流れを見る限りにおいて貝塚研究の成果と一致しているという点に留めておきましょう。地質学的人类史における年代音痴(検証方法を有さない年代測定のみ)は今更議論する必要はないでしょう。もっとも年代が合いそうな時にのみ参考とする姿勢も如何なものかと考えますが・・・。
- ・鴨志田レポートの重要な点は「表1 鹿島低地周辺域における主な低地性縄文遺跡の時期と立地・貝種」に尽きます。標高5～6mに分布する低地性遺跡は河口の「**余山貝塚**」周辺(「**吉沼貝塚**」)、奥域の「**奥野谷貝塚**」周辺(「**出羽貝塚**」、「**出羽前野貝塚**」、「**三渡遺跡**」)、そして中間域の「**川尻貝塚**」周辺の3グループに分けて考えるとより生態系を反映していることが分かります。
- ・縄文時代後期の貝層が著名な「**余山貝塚**」は、「**チョウセンハマグリ**」を主体とする外海浜辺の生態系(他に「**ダンベイキサゴ**」・ベンケイガイ等)を顕著に示し、他方で内湾系浜辺の生態系(ハマグリ・サルボウ・シオフキ・アカニシ・ツメタガイ等)も見られることから、銚子名物の貝種は外海浜辺の「**チョウセンハマグリ**」となります。従って、縄文時代後期の霞ヶ浦貝塚人が銚子まで外海浜辺と遠隔往還して採集する貝種は「**チョウセンハマグリ**」となりますが、残念ながら小野川河口の古渡湾に位置する広畑貝塚も法堂遺跡も「**チョウセンハマグリ**」を主体とする貝塚ではありません。
- ・縄文時代前期の学史的な海進議論で著名な「**奥野谷貝塚**」は、**ハマグリ**を主体とする内湾系浜辺の生態系(他にアサリ・オキシジミ・ハイガイ・サルボウ・アカニシ・ツメタガイ等)が顕著で、所在地から外海浜辺の「**チョウセンハマグリ**」は殆ど見られません。他方で縄文時代前期の霞ヶ浦では「植房式」の大谷貝塚や「所作式」の所作貝塚では「**チョウセンハマグリ**」が一定程度検出されます。この場合は外海浜辺との遠隔往還と考えるよりも、「**流海**」による稚貝の搬入と繁殖を措定します。三渡遺跡で後代に「**チョウセンハマグリ**」が見られるのは、「**流海**」から離れた位置の「**奥野谷貝塚**」とは異なり、「**流海**」に沿った位置に所在するからでしょう。
- ・縄文時代後期の学史的に著名な「**川尻貝塚**」は、「**奥野谷貝塚**」・「**三渡遺跡**」と「**余山貝塚**」の中間点に位置するが、**ハマグリ**を主体とする内湾系浜辺の生態系(他にサルボウ・カキ・アカニシ・ツメタガイ等)が顕著で、外海浜辺の「**チョウセンハマグリ**」は殆ど見られず、「**ダンベイキサゴ**」が知られるに過ぎません。
- ・「**銚子の浦**」(完新世バリアー)の形成が霞ヶ浦の全面汽水域環境形成の原因と考えたいのであれば、霞ヶ浦の縄文時代中期～後期の大貝塚群(陸平貝塚・椎塚貝塚・広畑貝塚等)の内湾系貝種群集の採集地はどこを想定しますか？ マダイを狙って銚子沖に出るならば、周辺の浜辺は「**チョウセンハマグリ**」の世界となりますので該当しません。それならば、「**銚子の浦**」は内湾環境でどうかというと、余程のハマグリ等の大量発生でもない限りは、霞ヶ浦全体のハマグリを賄えるとは思えませんし、そもそも「**銚子の浦**」における地場産貝塚形成が極めて貧弱であるという現象が妨げになります。
- ・そこで改めて見直すべきが「**信太流海**」や「**榎浦流海**」等の古鬼怒湾の三大「**流海**」群です。恒常的な「**信太流海**」のターミナル周辺である「**古渡湾**」では格好の内湾環境が形成され維持されており、広畑貝塚では少なくとも晩期前半まではハマグリ・アカニシが生息する海辺が地場に存在していた可能性が高いと思われます。「**古渡湾**」に流入する小野川流域では**道成寺貝塚**に代表されるように「**安行1・2・3式**」貝層は汽水系ヤマトシジミが主体となる貝塚に変化しますが、これは中妻貝塚や立木貝塚、荒海貝塚、奈土貝塚等の「**榎浦流海**」でも同様の状況です。

(2)【大山柏の話題】 古鬼怒湾と葛飾台地、そしてマダイ岩偶を出土した竹来根田貝塚の位置

大山柏ほか (1937) 『茨城県稲敷郡舟島村竹来根田貝塚群調査報告』『史前学雑誌』、第9巻第4号、史前学会

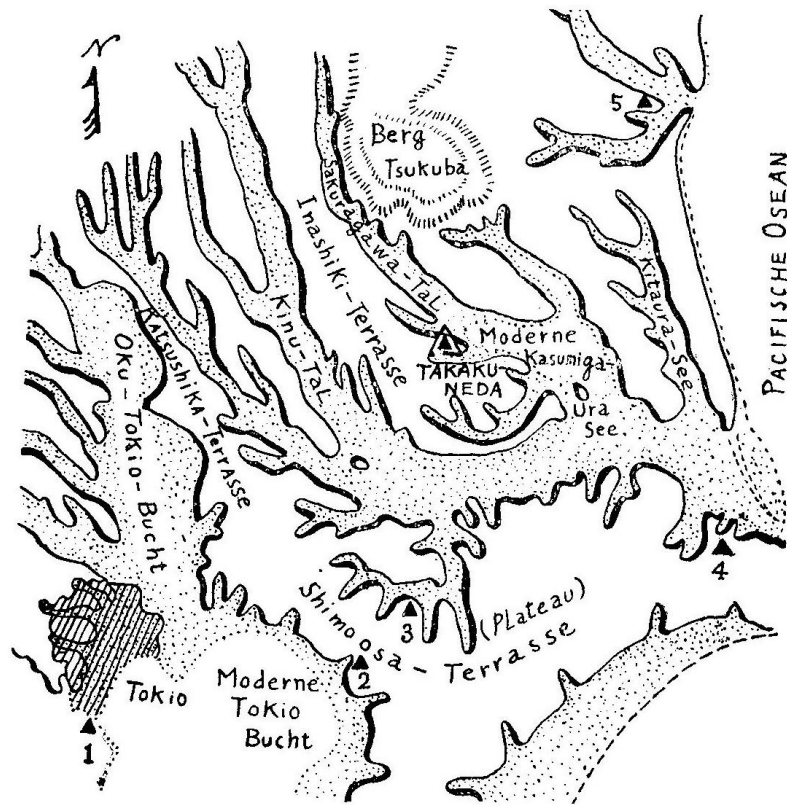
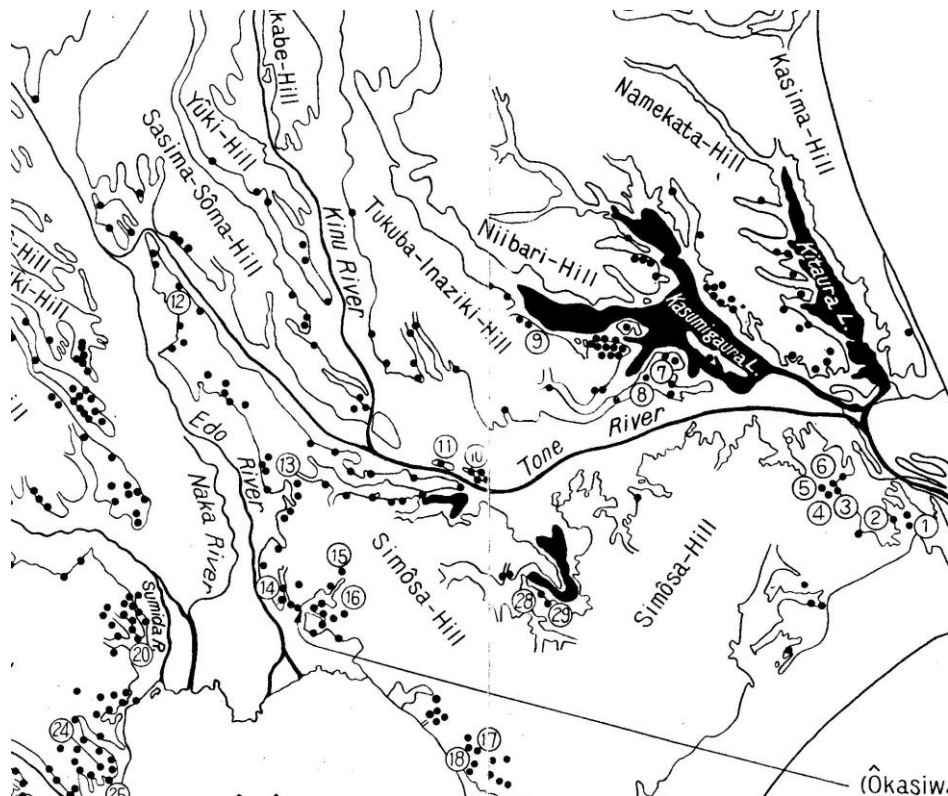


Fig. 1. Uebersichtskarte vom Kjökk. Takaku-Neda.1.

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. Muschelfaufen Omori | 2. Muschelhaufen Kasori |
| 3. Muschelhaufen Toobe | 4. Muschelhaufen Kaizuka |
| 5. Muschelhaufen Oogushi | |

(3)【「古渡湾」貝塚の位置】 ⑦広畑貝塚 ⑧椎塚貝塚 <ご参考⑨竹来根田貝塚 ①良文貝塚(上図の▲4)>

ジェラードグロッド・篠遠喜彦 (1952) 『姥山貝塚』、日本考古学研究所



1-2. 【仙台湾の「製塩土器」話題】：宮戸島里浜貝塚の「製塩土器」研究が一般に流布している？

会田容弘（2007）『松島湾の縄文カレンダー・里浜貝塚』、新泉社

塩づくり

夏には、食料獲得以外に重要な塩づくりがある。大量に消費する塩づくりのための製塩土器もこれに先立ってつくらなくてはならない。薄手なので、煮沸中にすぐこわれるし、ほかの村への塩容器としてかなり多めにつくる必要があった。

縄文時代の製塩は、製塩土器で海水を煮詰めることで塩をつくったようである（図48）。しかし、海水を最初から煮詰めたのでは、長い煮沸時間が必要となり、素焼きで薄い製塩土器では長い加熱には耐えられず、割れてしまう。そこで濃い海水をつくる必要がある。

この方法にはいくつか仮説がある。海水をためておいて、蒸発させて濃い海水をつくるという説。

海水を乾燥した海藻にかけて、水分を蒸発させ、塩分を海藻に付着させ、その海藻を燃やし、さらに塩分を含んだ灰を海水に溶かし、濃い海水をつくるという説などである。最終的に濃い海水を製塩土器で煮詰めて、塩を結晶させる。

わたしは、海藻を使う後者の説こそ可能性が高いのではないかと考えて、製塩遺構の貝層を発掘し水洗選別して入念に観察したところ、焼けた微細貝類と海藻の根の部分に付着する石灰化したものが多数検出された。これは海藻を燃やした確かな証拠であろう。

このような作業を重ねて塩はつくられた（図49）。製塩土器は西畑地区の貝層からも出土するので、でき上がった塩を製塩土器に入れて居住域にもち込み利用されたことがわかる。

これらの塩は調味料としてよりも、むしろ魚類加工の添加物として使われた可能性が高い。生魚も、塩蔵や乾燥・燻製にすることで、長期保存が可能になるだけでなく、遠くに運ぶこともできる。大量に捕獲された魚は、塩を用いて迅速に保存処理をしないと、夏などは腐敗してしまう。

西畑地点の縄文晩期貝層からは、大量のタイ類・スズキ・フグの頭部骨が椎骨にくらべ多く出土している。頭を落として保存処理をして、交易品とした可能性を考えてよいかもしれない。

1-3. 【「葛飾台地」の「土器型式」を学ぶ】：馬場小室山遺跡の縄文時代中期集落を理解するために

塚本師也（2019）「栃木県北部における縄文時代中期前～中葉の土器編年」『研究紀要』第27号、

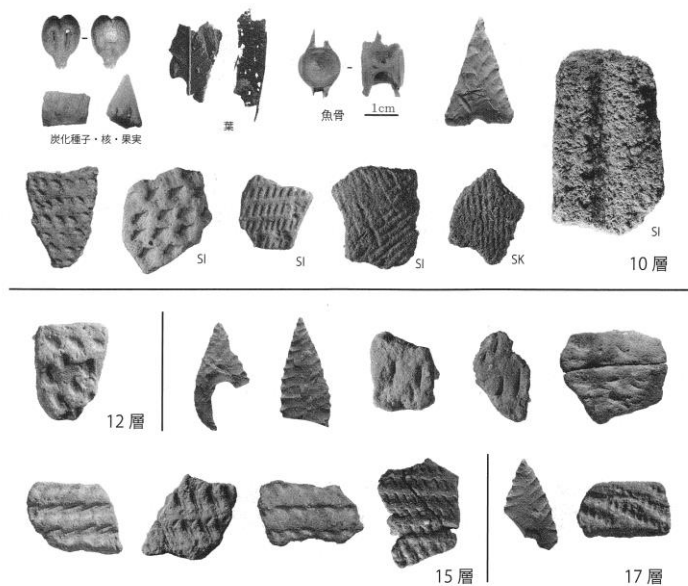
（公財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

・馬場小室山遺跡が所在する大宮台地では、その東縁が栃木県の「二軒屋式」文化圏であることから、下野から東葛地方にかけての「葛飾台地」を中心とした縄文時代中期の「土器型式」を、塚本師也論文のデータを参考に齋藤弘道さんの視点で解説して頂きます。

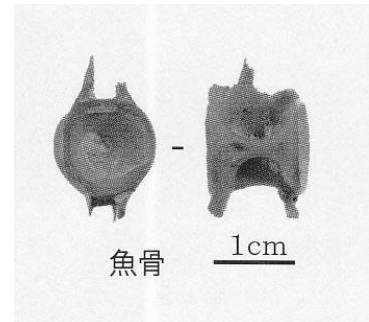
2. 【環境変動と文化変容】：海進／海退の環境変動と文化変容、地震・津波・台風・洪水の「防災・減災考古学」など

2-1. 【山形県南陽市北町低湿地遺跡】：暖流系マグロ属の椎骨は何を語る！

長井謙治（2019）「約12,000年前の低湿地遺跡」『季刊 考古学』第148号、雄山閣



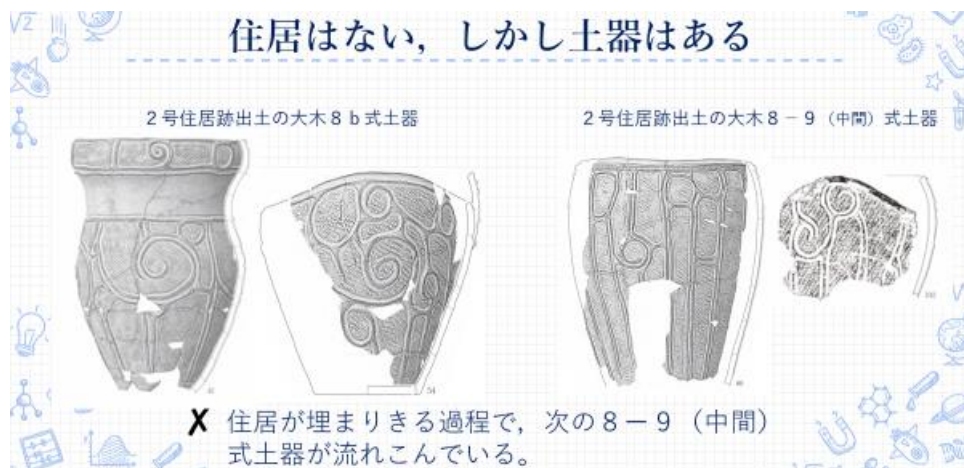
北町遺跡出土遺物（2018年度調査）
10層で多縄文系の土器、石器、魚骨、ブドウ炭化種子、オニグルミ炭化核、ヒシ炭化果実、広葉樹炭化材、12層で多縄文系の土器と石器、15層で爪形文系土器、多縄文系土器、尖頭器、菅根型長脚鉢、17層で土器、石鏃が出土した。10層出土の魚骨は、マゴロ属の椎骨（尾椎）である。



2-2. 【「防災・減災考古学」】：山田湾における縄文時代中期「大木8-9(中間)式」の集落

齋藤瑞穂・鈴木正博（2019）「縄文三陸地震津波再論—山田湾の復興を考える手掛かりとして—」『2019年度前近代歴史地震史料研究会講演要旨集』、前近代歴史地震史料研究会

- ・齋藤瑞穂さんが山田町浜川目沢田 I 遺跡の縄文時代中期の低地集落を分析し、「大木8-9(中間)式」に面白い現象を導出し、周辺遺跡でも追認できましたので発表要旨を別添し、研究成果を共有したいと思います。



- ・岩手県下閉伊郡普代村力持遺跡における「大木8-9(中間)式」の動向



- ★山田湾は二枚貝の棲息地が狭小なため、貝塚の復興を待つ必要がなく、津波被害後の集落の復興は早いようです。しかし、二枚貝採集に重点を置く内湾の集落では稚貝は殆どが流されてしまい、繁殖の継続性が保証されませんので、貝塚形成も中断せざるを得ません。

3.【考古学から見たヒトと動物とのかかわり】： ヒトと動物たちはともに生きる仲間、貝塚とはヒトと動物たちが生きた証の場！

3-1.【「サケ・マス論」の食用外効用】： 寒い風土から誕生した縄文土器と「サケ・マス論」の調和・共鳴

- ・ロシアの沿海州、アムール川の人々はサケやコイの「魚皮衣」をレインコートや花嫁衣裳としていました。
- ・ロシア・西シベリアの少数民族ハンティはカワカマスの椎骨でネックレスをつくり、魚皮も小物入れに使います。

3-2.【東京湾における縄文時代中期貝塚の遍在性】： 最終目標は加曾利貝塚出現の謎への接近です！

- ・ヒトと貝の関係を俯瞰します。今回は別紙にて事実確認まで。

4.【「山田湾まるごとスクール」の推進】：五十嵐聡江さんからの「お米サンタ」実施報告

お米サンタですが、昨年と同様に大浦へはお米とミカン、北浜にはお餅をお送りしました。
大浦は野田さんが分配し、北浜は21日の例会で配って下さったとのことです。

お米サンタ内訳は以下の通りです。

■大浦

- ・JA 越後ながおかより、特別栽培米コシヒカリ 5kg を 10 袋
3,400 円×10=34,000 円(税込・送料込)
- ・愛媛のま農園より、贈答用愛媛ミカン 9kg を 2 箱
7,500 円×2=15,000 円(税込・送料込)

■北浜

- ・JA 越後ながおかより、特別栽培こがねもち(切り餅シングルパック 8 袋入り)を 7 個
4,380 円×7=33,810 円(税込・送料込)

大浦+北浜=34,000 円+15,000 円+33,810 円=82,810 円

ところで、お米サンタのやり取りで野田さんに電話した際に、台風の被害を伺ったところ、川端さんのご自宅から霞露ヶ岳神社へ通じる暗渠の道が、台風の時に水だけでなく流木や土砂が流れ、12 月時点でも通行止めの状態だそうです。
野田さんも川端さんもご自宅は浸水の被害にあわず無事でしたが、周囲には水があふれ、数日はご自宅から出られなかったそうです。

以上、お米サンタの報告になります。

5.【その他連絡・情報交換など】： 今後の予定や自由な意見・情報交換、そしてワイン・アーケオロジー

(1)ワークショップ関連予定：「新年会」、「山田湾まるごとスクール会」、「お花見会」の日程を確保下さい！

- ・ 1/19(日)：「馬場小室山遺跡の学び舎」第101回フォーラム:「新年会」
★弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓など
- ・ 3/8(日)：第102回フォーラム:「山田湾まるごとスクール会」(於:パルコ9F市民活動サポートセンター)
- ・ 3/29(日)：第103回フォーラム:「お花見会」(八雲貝塚と三崎台遺跡(弥生後期))

(2)その他

以 上